

## 「わくわく」を共有しながら納得のくらしを創ろう

### 「区政の暴走」その背景にあるのは

東京ドームを背に聳え立つ文京シビックセンター。目的の階を目指してそそくさとエレベーターに乗り込むと、押したボタンが点灯しない。「ああ、こちらは高層階用だった」と、1階まで降りて乗りなおしたことが何度あったでしょうか。時間外や土日は階段室のドアを開けたところにある業務用エレベーターを利用しますが、目的階についてフロアへのドアを開けようとするとロックされていることがしばしばあります。しかたなく1階に下りて警備員さんに訪ねると、あらかじめ知らされた時間を過ぎると鍵をかけてしまうとのこと。まだ、目的の会議は進行中のはずなのに……。だめもとで係りの部署に電話してみて、ようやくたどり着いた。こんな経験をしたのは私だけではないと思います。

展望階からの眺めは確かに絶景ですが、これがなくとも区民は困らないでしょう。シビックセンターは維持管理費だけで年間約12億円かかっています。仮に売ろうにも、中央部が空洞になって使い勝手が悪く維持管理費のかさむつくりゆえに、一説には買い手も借りてもつかないのではないかとさえ言われています。

まさに「区民の負の遺産」といえましょう。

さて、その負の遺産を象徴として東京都の中心部に位置し、私たちの住む文京区。今、文京区では区民の生活に大きく影響する動きがあります。

「文京区立小・中学校将来ビジョン（素案）」です。この素案に示された内容は、現在ある20の小学校を13校に、11の中学校を8校に減らし、しかも互いが関連しあってドミノ倒しのように次々と新しい建物を造っていく筋書きです。

地域・子どもたち・保護者たちから求められている学校をなぜなくさなければならないのか？ どれだけすばらしい未来と引き換えにそんな犠

牲を払わなければいけないのか？ その必然性について、説得力ある説明が何もされていません。

そればかりか、第五中学と第七中学の統合を素案とは別に「決定事項」として推し進め、区民の利用度が高い新大塚公園での新校建設を区民から反対の声が多く上がっているにもかかわらず、強引に進めようとしています。

つじつまの合わない説明を「あとづけ」して、学校つぶしに走る。これは教育の名を借りた再開発にほかなりません。

「将来ビジョン」だけでなく、保育園の人員削減や公設民営化計画など、ほかにもさまざまな問題を抱え、区民がそれに振り回されている状況です。疑問を持った区民が区に情報開示を求めても、おざなりな「情報公開」でお茶を濁し、本当に肝心な情報は出そうとしません。

### 「お任せ」「思考停止」からの脱却

なぜこれだけ「区民の方を向いていない区政」がまかり通るようになってしまったのでしょうか？ 区長の責任、区の職員の責任、議会の責任それぞれあるでしょう。しかし、私たち区民も責任の一端を担っているのです。いや、むしろ一番責任が大きいのは区民かもしれません。なぜなら、私たちの多くが区長や区議会議員を選んで、その後の仕事振りをきちんとチェックせずにお任せの姿勢を決め込んでしまったからです。

主権在民をうたった憲法における日本の地方自治の歴史はたかだか60年ほどです。まだまだ未成熟なものあたりまえかもしれません。

最近では地方分権が進み、中央におんぶにだっこだった体質改善も迫られています。さらに、「協働・協治」が叫ばれ、各自治体はこぞって住民参画をうたった自治基本条例を制定する動きにあります。文京区にも立派な「文の京自治基本条例」

がありますが、入れ物ができただけで、中身はまだまだ伴っていません。

さらに、行政の抱える課題は複雑化する一方で、価値観の多様化、少子高齢化、いじめや虐待、だまっけても成長した時代とは違う財政背景。行政の責任として何をどこまでやるか、難問は山積です。

こういった変化に、行政も住民もどちらも、まだ適応できていません。

今の区政のままじゃいけないという気持ちはあっても、何から手をつけたらよいかわからない。一人であがいたところで何も変わらないと、無力感から思考停止に陥る。もっと暮らしやすい場所を探して移り住んでいく。そうしたことも、ある意味でしかたなかったのかもかもしれません。これまでは。

## 首のすげ替えより OS の入れ替えを

しかし、これからはそうはいきません。直面する問題から目をそらしたところで、事態はますます悪くなるばかりです。では具体的にはどうすればよいのでしょうか？

よく言われるのは「区長を変えること」です。これは絶対必要でしょう。

でも区長さえ変えればすべてがうまくいくのでしょうか？

それに、仮にすばらしい人が区長になったとしてその人にすべてお任せしてよいのでしょうか？偉くてすごい人がどこかにいて、その人が救世主のようにすべての問題を解決してくれるのでしょうか？そんな人は世界中どこを探してもいないでしょう。

今私たちに求められることは、「われに返ってゼロから出発する」ことではないのでしょうか？知らず知らずのうちに、決まりきった思考パターンに縛られてしまっている自分の頭の OS とともに、「区政」の OS も総入れ替えする必要があります。区民の区政とのかかわり方や、組織のあり方もゼロからつくっていくときが来ているのではない

でしょうか。

## 「わくわく」を共有しよう

今こそ、住民一人一人の意識変革が問われています。自立した「市民」として、地域の暮らしを主体的につくる人に、自分からなっていく努力が必要です。「努力」といいましたが、この努力、けっして苦しいものではなく、案外楽しいのです。

私たちは、同じ問題意識を持つ仲間たちが集まって、区政のこれからをあれやこれや話す機会を何度か持ちました。最初は、あまりにもひどい区政の状況を述べ立てるだけでしたが、次第にお互いの情報や、異なる観点からの発想、新しいまちづくりのアイデアを出し合っているうち、「もやもや」がしだいに「わくわく」に変わっていききました。そうした議論を積み重ねて、プランをたて、実行に移し、成果につなげていくことができれば……。そしてみんなが納得してハッピーになれば……。その達成感は何ほどでしょうか。考えただけでわくわくします。

そんな「わくわく」を一人でも多くの人と共有したい。そんな思いで、この会が始まりました。

私たちの子どもが大人になったときに、幸せな暮らしが送れる地域であってほしい。親であればだれもがそう願います。

そんな明るい未来はだれかがつくってくれるのではない。そのことに私たちは気がつきました。私たちが自分の手でつくっていくものなのです。一緒に未来をつくるためにほんの少し手を伸ばし、足を踏み出すだけでよいのです。

「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆ならおどらにゃソソソ！」見ているだけより、自分がやってしまったほうがどれだけ楽しいか。そんな「阿呆菌」が増殖していってくれば、大きなうねりとなって、私たちの暮らしを変えていくことができると信じています。

あなたも傍観していないで、あきらめて閉じこもっていないで、かかわりあって、知恵を出し合って、新しい文京モデルを一緒に作りませんか？